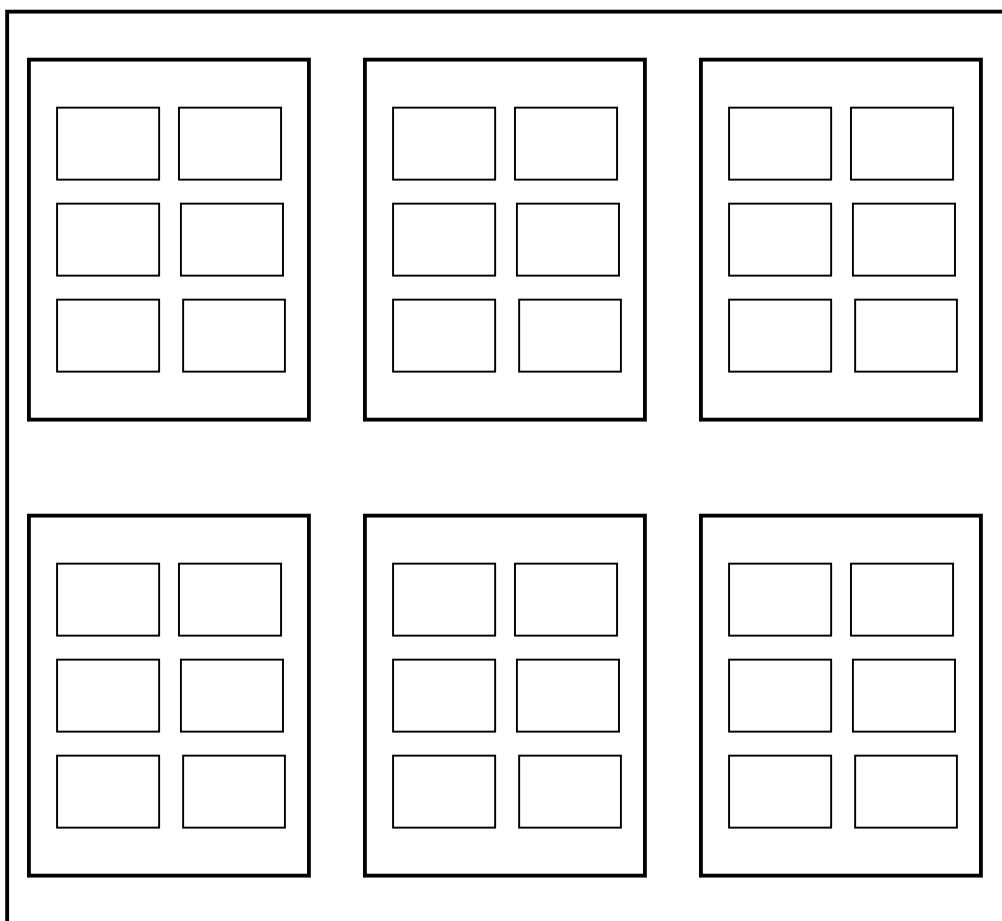


GTB

Rotator ユーザーズマニュアル



目次

第一章 お使いになる前に	5
1. 動作環境とインストール	7
1-1. 推奨動作環境	7
1-2. Rotator のインストール手順	8
2. Rotator 概要	12
2-1. 概要	12
2-2. 取り扱うファイル	15
3. サンプルアプリケーション	16
4. Windows 基本操作	17
4-1. マウスの操作	17
4-2. ウィンドウ操作	19
4-3. リスト操作	22
4-4. リスト操作	24
第二章 操作説明	25
Rotator のオペレーション	27
1. 基本画面	27
2. メニュー構成	29
3. ダイアログ	32
3-1. ホットフォルダ設定	32
3-1-1. 設定ダイアログ	32
3-1-2. ホットフォルダの設定	34
4. HTML によるログファイルの出力	39

5 . トラブルシューティング 39

第一章

お使いになる前に

動作環境とインストール

Rotator 概要

Windows の基本操作

1. 動作環境とインストール

1 - 1. 推奨動作環境

入力フォーマット : TIFF (1ビット、グレースケール、CMYK コンポジット)

出力フォーマット : TIFF (1ビット、グレースケール、CMYK コンポジット)

コンピュータ本体 : Pentium 600Mhz以上

メモリ : 128MB以上

ハードディスク : 20GB以上

OS : WindowsNT サービスパック5以上

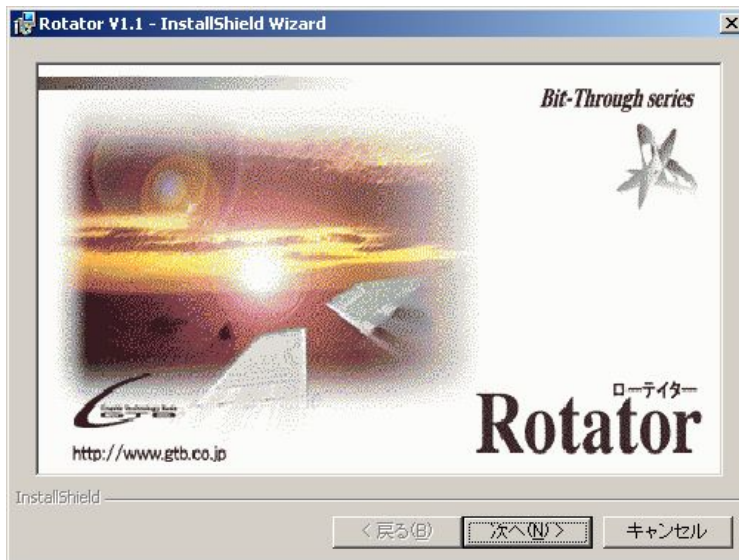
: Windows2000

1 - 2 . Rotator のインストール手順

(注意) Rotator は、起動前にハードウェアキーが接続されている必要がありますので注意して下さい。



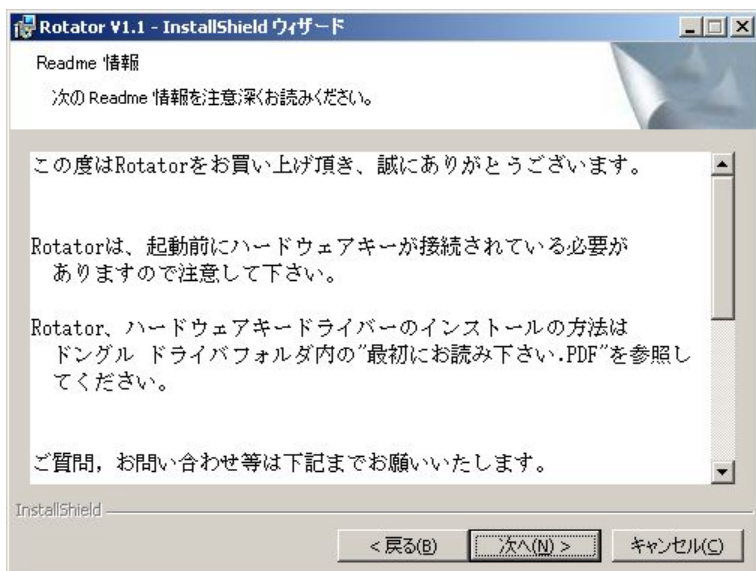
1) C D - R O M 内にある「setup.exe」をダブルクリックします。



2) インストールを行う製品のセットアップウィザードが起動しますので「次へ(N)」をクリックします。



3) 製品の使用許諾が表示されますのでよくお読みください。同意いただいた場合、本製品のインストールが可能となりますので「次へ(N)」をクリックします。



4) インストールにあたっての注意事項と製造元の情報が表示されます、よくお読みの上「次へ(N)」をクリックします。



5) 名前と所属会社名を入力し、「次へ(N)」をクリックします。



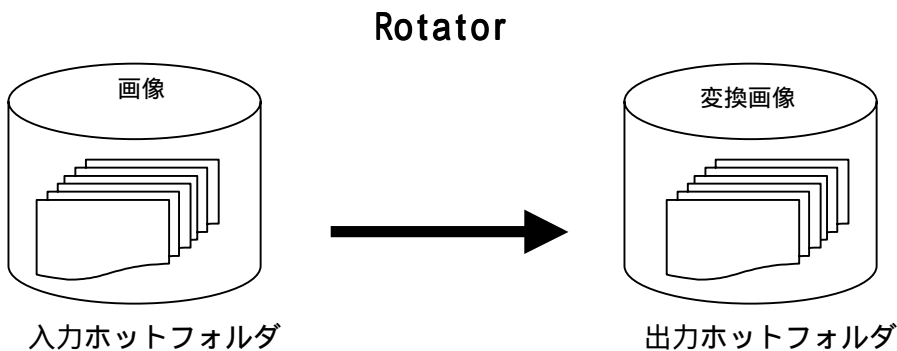
6)インストール先のフォルダを指定します。

変更する場合は「変更(C)…」をクリックして、パスを直接入力するか、ディレクトリを指定します。「次へ(N)」をクリックするとアプリケーションのインストールを開始します。

2 . Rotator 概要

2 - 1 . 概要

Rotator はバッチ処理で元画像（1bit、グレースケール、CMYK コンポジット TIFF）に90度単位の回転、x、y軸ミラーをかけた画像の生成ができます。また、0度回転とすれば、コピーやネガポジ変換、圧縮形式の変更（1bitTIFFの非圧縮からG4へなど）アプリケーションとしても利用できます。入力フォルダを一定間隔で監視し、新しい画像ファイルが入っていれば自動的に変換をし、出力フォルダに保存します。サーバーマシンをひとつ用意すれば、複数のクライアントマシンからサーバーの能力を利用して一括処理を行うことができます。

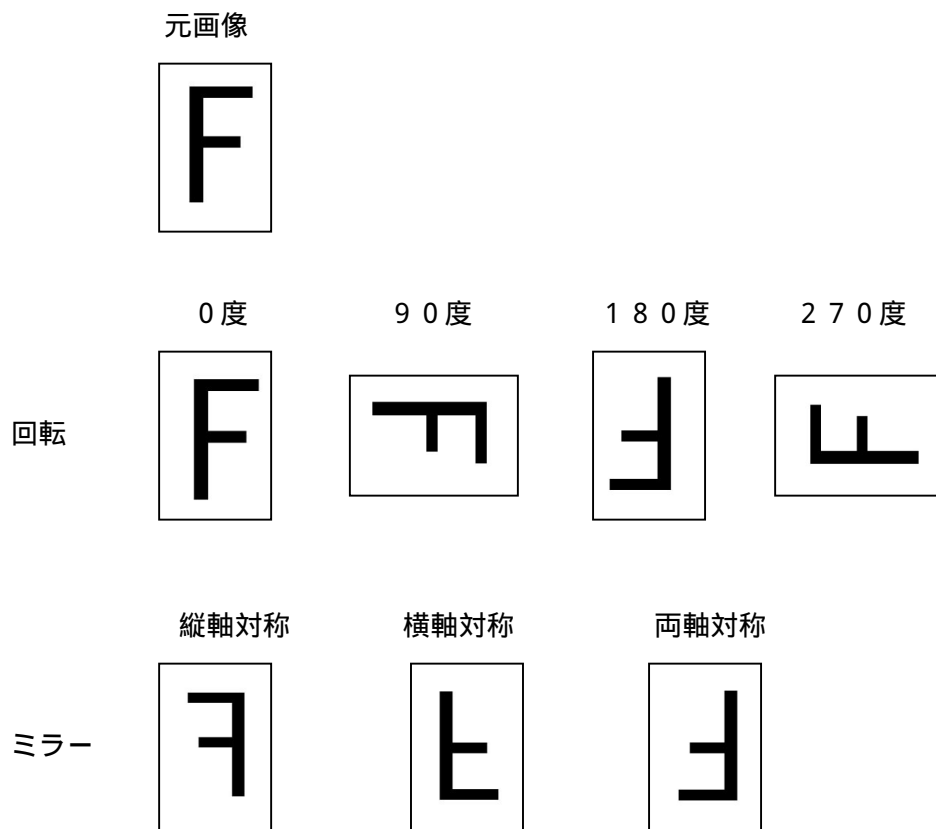


2 - 1 - 1 フォルダセット

監視を行う入力フォルダや処理後の出力フォルダなどフォルダの組み合わせと、処理選択などのパラメータ設定をまとめてフォルダセットと呼びます。複数のフォルダセットを設け、異なった変換を行えます。

2 - 1 - 2 処理選択

Rotator は画像の90度単位の回転、またはx、y軸を対称軸としたミラー処理が選択できます。



2 - 1 - 3 作業領域サイズ設定

処理選択の中で90度、270度回転では作業領域として使用できる実メモリ量が多いほど高速処理が可能となります。（他の処理ではあまり多くのメモリを使用できません。）

このときに使用できる作業領域の最大メモリ量をファイルメニューの「作業領域設定」でMB単位で指定します。実メモリ量を超え仮想メモリを含めて指定すると速度が低下します。

変換される画像サイズ（非圧縮に換算）を超えるメモリ量を指定した場合が最高速となります。

画像サイズは以下のように算出できます。

[二値画像]

$$\left((x \text{方向の画素数} / 8) * y \text{方向の画素数} \right) / (1024 * 1024) + 18 \text{ MB}$$

[グレースケール画像]

$$(x \text{方向の画素数} * y \text{方向の画素数}) / (1024 * 1024) + 18 \text{ MB}$$

[CMYK コンポジット画像]

$$\left((x \text{方向の画素数} * 4) * y \text{方向の画素数} \right) / (1024 * 1024) + 18 \text{ MB}$$

上記の18MBはRotatorで画像サイズ分以外で作業領域として使用するメモリ分です。

作業領域設定ではどちらかを選択します。

- ・ 最大サイズ

現在の使用可能実メモリ（仮想メモリ部ではない）量を作業領域の最大サイズとします。

Rotatorだけを動作させる場合はこの指定にして下さい。

- ・ 作業領域サイズ（MB）

指定量（MB）を作業領域の最大サイズとします。指定量が実メモリを超えた場合は仮想メモリも使用されます。他のアプリケーションも同時に動作させる場合などに使用します。

2 - 2 . 取り扱うファイル

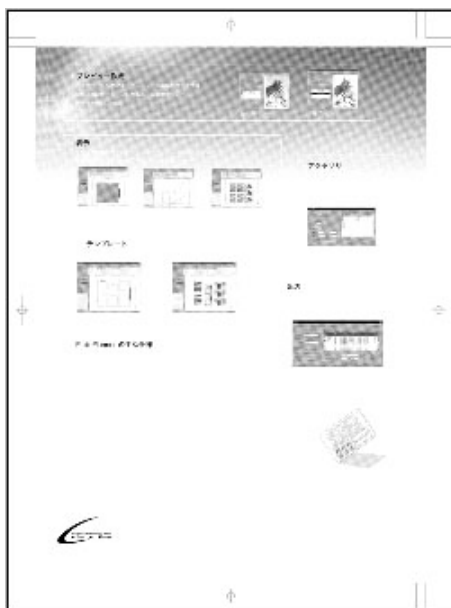
Rotator では 1bit、グレースケール (8 ビット)、CMYK コンポジット (3 2 ビット) TIFF ファイル (.tif) を取り扱います。

3. サンプルアプリケーション

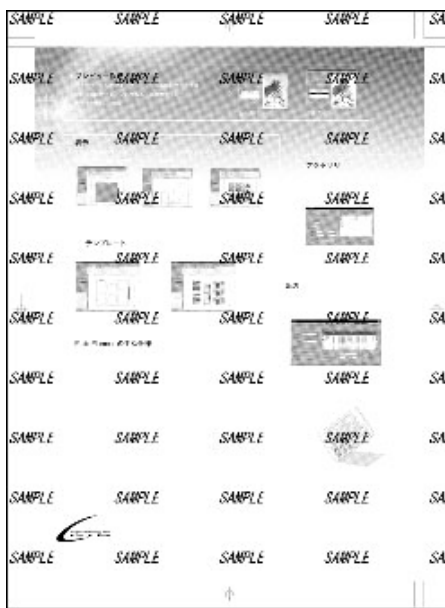
ハードウェアキー(コピーガード)を接続しないで動作させた場合、有効期限内でだけサンプルアプリケーションとして動作します。

サンプルアプリケーションでは、全機能が使用できますが、出力画像内に“SAMPLE”の文字が埋め込まれます。また本来の処理よりも多くの時間を要します。(“Creating Sample Images”のメッセージがプログレスバーに表示されている時間が加算されます。)

本来の画像



サンプルアプリケーション時の画像



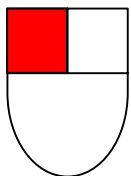
4 .Windows 基本操作

4 - 1 . マウスの操作

マウスはコンピュータに指示を与えるための装置です。マウスには右ボタンと左ボタンがあります。マウスの操作には、クリック（左クリックともいいます）、右クリック、ダブルクリック、ドラッグの4種類があります。

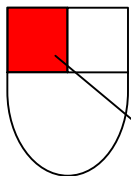
『クリック』

マウスのボタンを1回押してすぐに離すことを、「クリック」といいます。クリックはメニューやボタンを選んだりするときに使います。



『ダブルクリック』

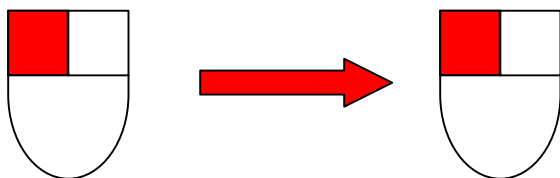
左ボタンをすばやく2回押すことを「ダブルクリック」といいます。ダブルクリックはアプリケーションソフトを起動するときなどに使います。



2回、カチカチと素早くクリック

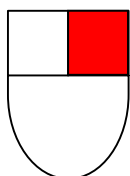
『ドラッグ』

マウスの左ボタンを押したままマウスを動かすことを「ドラッグ」といいます。また、目的の場所までマウスをドラッグした後、マウスのボタンを離すことを「ドロップ」といいます。ドラッグはアイコンやウィンドウの移動や、操作の範囲の選択などに使います。



『右クリック』

マウスの右ボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。右クリックは主にメニューを表示させます。

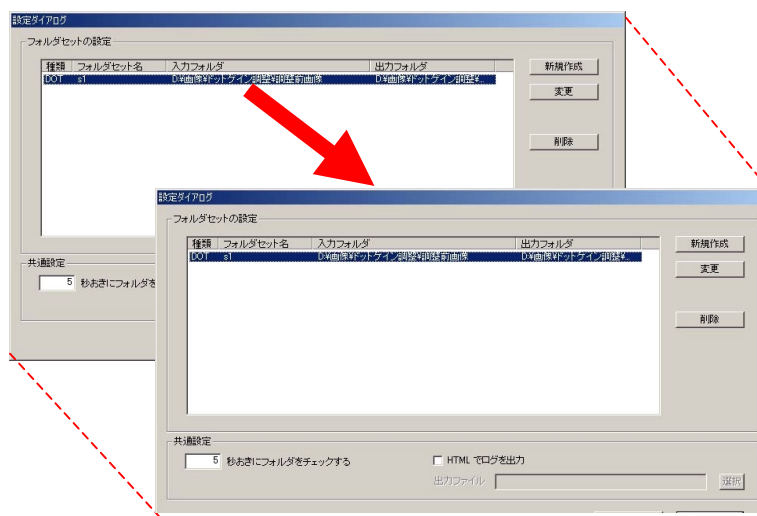


4 - 2 . ウィンドウ操作

ウィンドウは作業を行なう仕事場のようなものです。アプリケーションを起動させるとそのアプリケーションのウィンドウが開かれ、作業ができるようになります。ウィンドウは同時にいくつも開くことができるので、複数の作業を同時進行で行なうことができます。

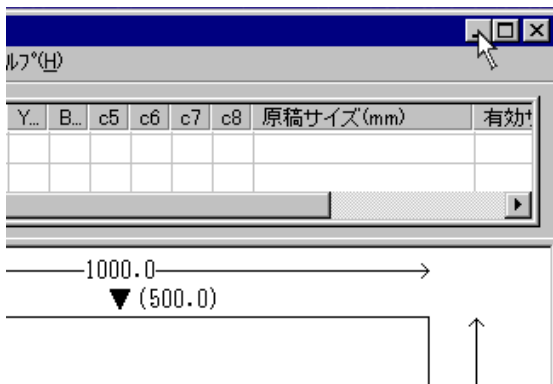
『ウィンドウを移動する』

ウィンドウを移動するときには、そのウィンドウのタイトルバーをドラッグします。移動させたい位置まできたら、マウスのボタンを離します。ウィンドウを移動させても、ウィンドウの大きさは変わりません。



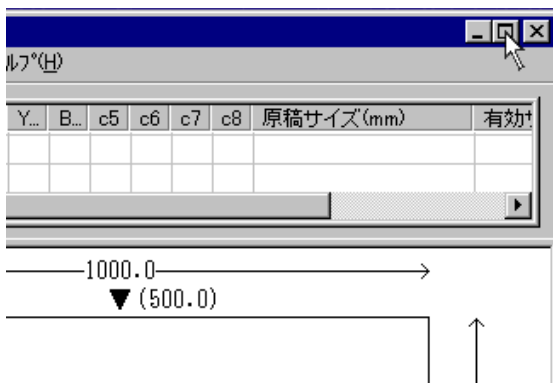
『ウィンドウを最小化する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、左端のボタンをクリックします。すると、ウィンドウはタスクバーに格納され見えなくなります。タスクバーに格納されたウィンドウのボタンをクリックするとふたたび現れます。



『ウィンドウのサイズを変更する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、真ん中のボタンをクリックすると、ウィンドウは画面いっぱいに表示されます。もう一度クリックすると元の大きさに戻ります。またすでに画面いっぱいに表示されている場合、このボタンは元のサイズに戻すボタンになります。



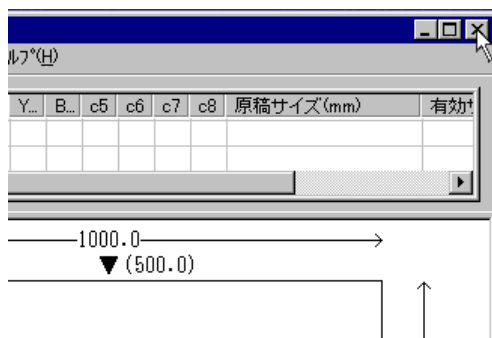
『ウィンドウを好きな大きさに変更する』

ウィンドウの枠の部分にマウスのポインタをあわせると、マウスポインタの形が変化します。この時にマウスをドラッグすると、ウィンドウの大きさが変わります。好きな大きさになったところで、マウスのボタンを離してください。



『アプリケーションソフトを終了する』

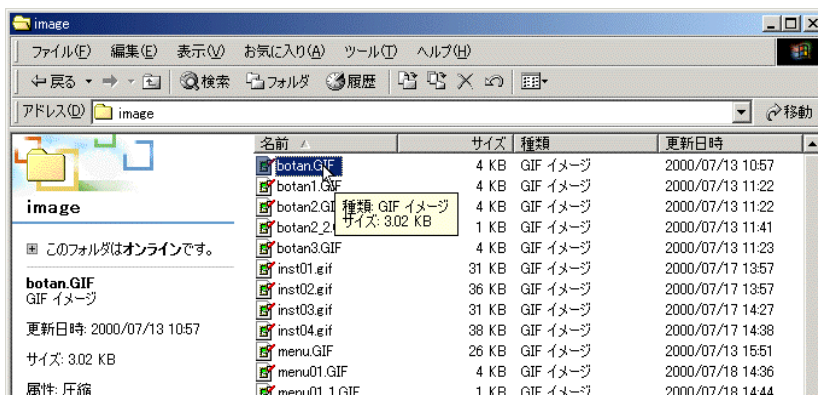
タイトルバーの右端に配置されてるボタンの右側のボタンをクリックします。ウィンドウは消え、アプリケーションは終了したことになります。



4 - 3 . リスト操作

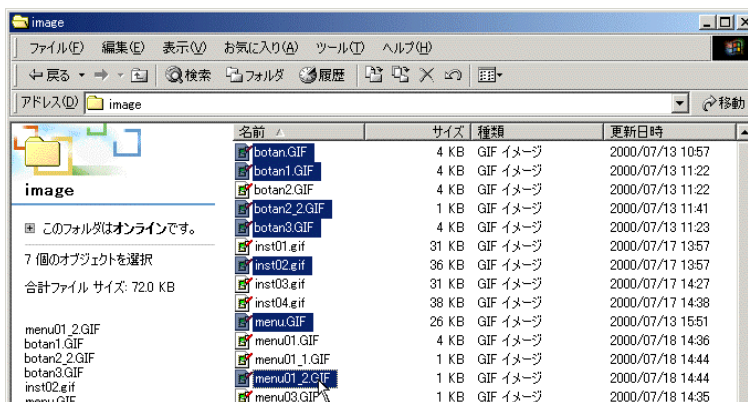
『リストの選択』

リストの一覧のウィンドウで選択したいファイルまたは項目にカーソルを合わせてクリックします。選択した項目の色が変われば、その項目を選択したことになります。



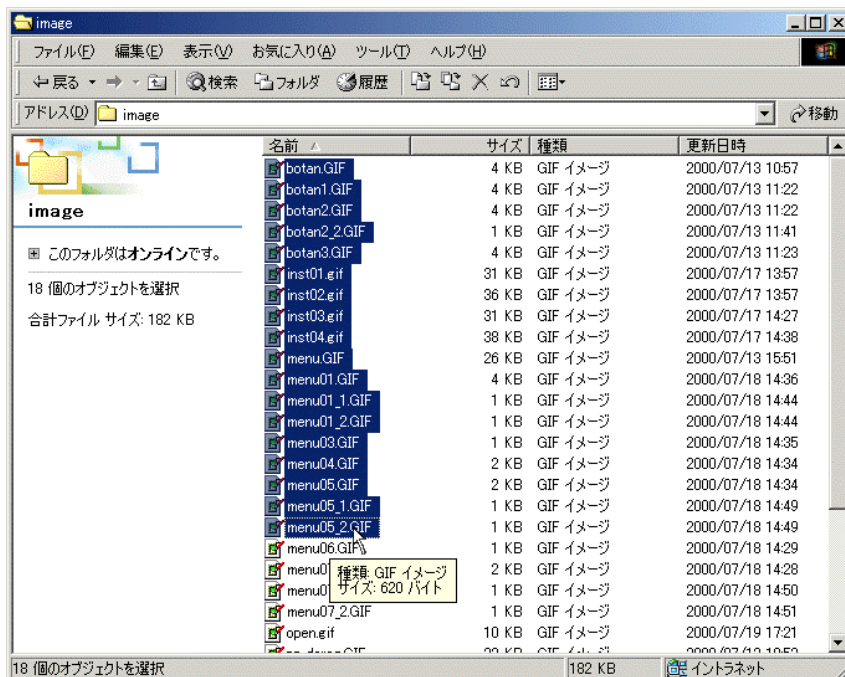
『リストの複数選択』

キーボードの Ctrl キーを押しながらリストを選択すると、複数のファイルまたは項目を選択することができます。



『リストの一括選択』

Shift キーを押しながら、ファイルまたは項目を選択すると、最初に選択されたファイルから、今、選択されたファイルまで一括で選択できます。最初に選択を行っていないときは、リストの最初からの選択になります。



『すべてのリストを選択』

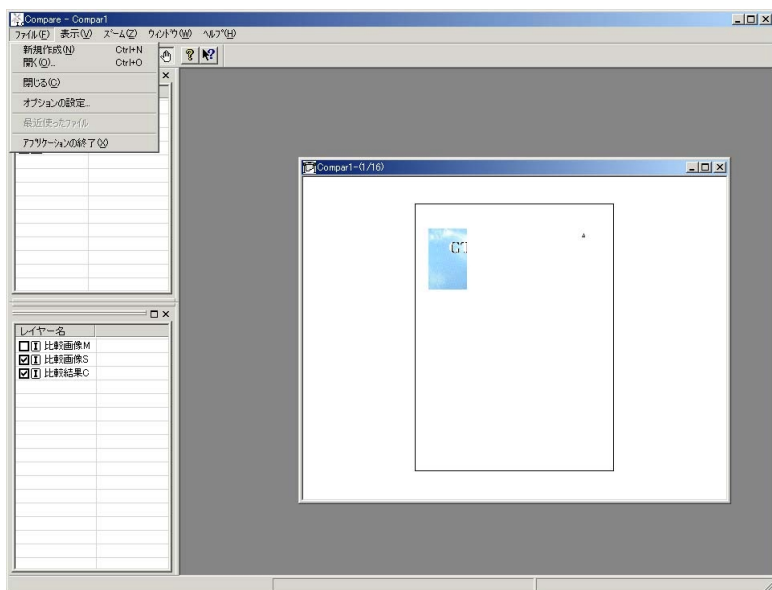
メニューバーの「編集」-「すべてを選択」を選択するとすべての項目を選択することができます。Ctrl キーと「A」を同時に押しても同等の効果が得られます。

4 - 4 . メニュー操作

タイトルバーの下の「ファイル」、「編集」などの項目一覧を「メニュー」と呼びます。右クリックなどでもメニューの選択は可能です。メニューバーには選択できる全てのメニューがあります。

『メニューの選択』

行なう作業項目をクリックすると、その項目のさらに細かな作業のメニューが降りてきます。降りてきたメニューの作業項目をクリックするだけです。



第二章

操作説明

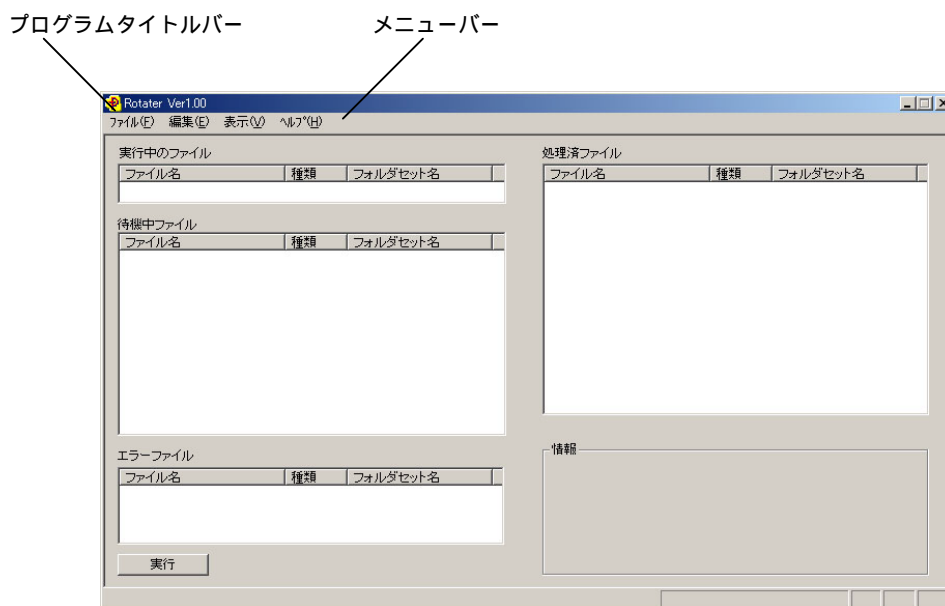
Rotator のオペレーション

Rotator のオペレーション

「RotatorHF.exe」のアイコンをダブルクリックしますと Rotator が起動し、基本画面が表示されます。

基本画面は、現在の処理状況を表します。各種設定を完了させ「実行」ボタンをクリックすればフォルダセット毎の入力フォルダ監視が始まり、画像が入力フォルダに移されると回転/ミラー処理が行われます。

1. 基本画面



【実行中のファイル】

現在処理されている画像ファイル名とそのフォルダセット名が表示されます。

【待機中のファイル】

入力フォルダに入っているファイルのうち未処理のものが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

【処理済ファイル】

入力フォルダに入っていたファイルのうち、処理の終了したファイルが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

【エラーファイル】

何らかの原因で処理ができなかったものが表示されます。表示されているファイル名をクリックするとエラー原因の簡単な説明が「情報」枠に表示されます。

【一時停止・実行ボタン】

フォルダのチェックを一時的に停止させたり、再び実行させたりできます。

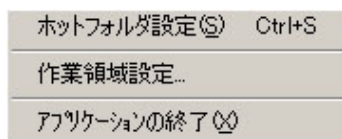
【情報（枠）】

リストのひとつをクリックして選択すると、関連の情報が表示されます。

2 . メニュー構成

基本画面のメニューバーをクリックし、メニューを選択すれば個々の設定や確認ができます。

2 - 1 . ファイルメニュー



1) ホットフォルダ設定

フォルダーセットの設定をします。

2) 作業領域サイズ設定

90度、270度回転では作業領域として使用できる実メモリ量が多いほど高速処理が可能となります。このときに使用できる作業領域の最大メモリ量を指定します(MB単位)。実メモリ量を超え仮想メモリを含めて指定すると速度が低下します。

変換される画像サイズ(非圧縮に換算)を超えるメモリ量を指定した場合が最高速となります。

画像サイズは以下のように算出できます。

[二値画像]

$$((x \text{方向の画素数} / 8) * y \text{方向の画素数}) / (1024 * 1024) + 18 \text{ MB}$$

[グレースケール画像]

$$(x \text{方向の画素数} * y \text{方向の画素数}) / (1024 * 1024) + 18 \text{ MB}$$

[CMYK コンポジット画像]

$$((x \text{方向の画素数} * 4) * y \text{方向の画素数}) / (1024 * 1024) + 18 \text{ MB}$$

上記の18MBはRotatorで画像サイズ分以外で作業領域として使用するメモリ分です。



以下のどちらかを選択します。

- ・ 最大サイズ

現在の使用可能実メモリ（仮想メモリ部ではない）量を作業領域の最大サイズとします。

Rotator だけを動作させる場合はこの指定にしてください。

- ・ 作業領域サイズ（MB）

指定量（MB）を作業領域の最大サイズとします。指定量が実メモリを超えた場合は仮想メモリも使用されます。他のアプリケーションも同時に動作させる場合などに使用します。

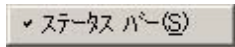
3) アプリケーションの終了

このアプリケーションを終了します。

2 - 2 . 編集メニュー

現在は使用できません。

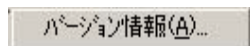
2 - 3 . 表示メニュー



1) ステータスバー

基本画面下部のステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。

2 - 4 . ヘルプメニュー



1) バージョン情報

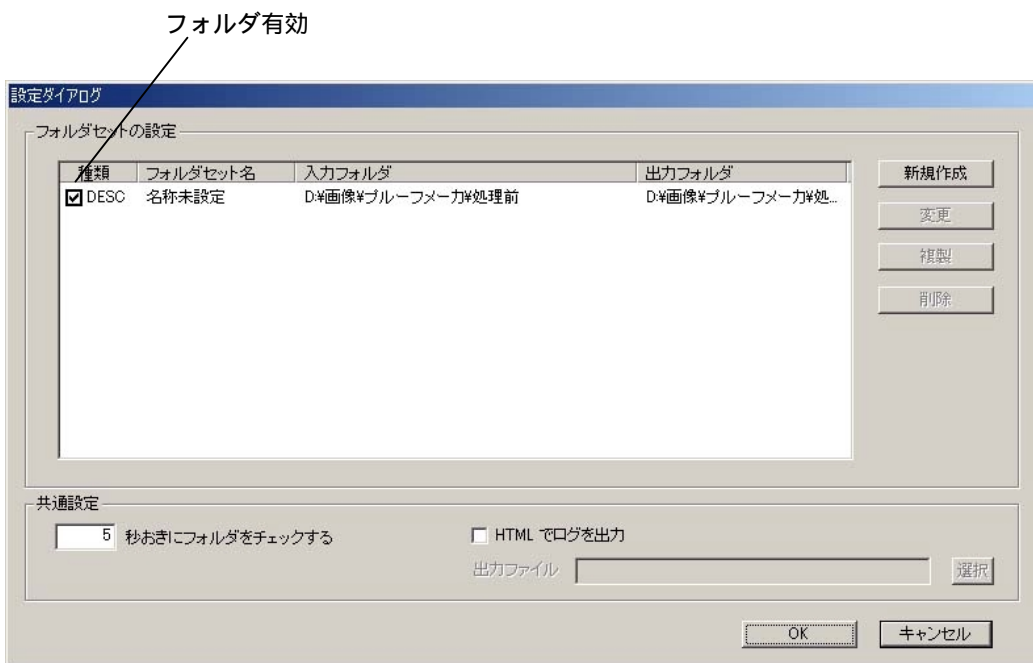
Rotator のバージョン情報が表示されます。

3. ダイアログ

3 - 1. ホットフォルダ設定

3 - 1 - 1. 設定ダイアログ

基本画面の「ファイルメニュー」から「ホットフォルダ設定」を選択すると、「設定ダイアログ」が表示され、フォルダセットの登録などの設定を行えます。設定が完了すれば「OK」、設定を無効にする場合は「キャンセル」をクリックします。



【フォルダセットのリスト】

現在設定されているフォルダセットが一覧表示されます。任意のフォルダセットをダブルクリックすると「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

各フォルダセットの左端に「フォルダ有効」チェックボックスがあり、チェックをした場合だけ有効なフォルダセットとなります。

【新規作成（ボタン）】

新しいフォルダセットが作成され、「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

【変更（ボタン）】

選択されているフォルダセットについての「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

【複製（ボタン）】

選択されているフォルダセットを複製します。設定のあまり変わらないフォルダセットを作成するときに便利です。

【削除（ボタン）】

選択されているフォルダセットを削除します。やり直しはできません。

【共通設定】

・ 秒おきにフォルダをチェックする

入力フォルダをチェックする間隔を指定します。基本画面で「一時停止」されたとき以外はこのタイミングでフォルダがチェックされます。

・ HTML でログ出力

ログファイルを HTML で書き出し、WWW ブラウザでログの確認をできるようにします。詳しい解説は「HTML によるログファイルの出力」のところをご覧ください。

3 - 1 - 2 . ホットフォルダの設定

回転/ミラーを行うホットフォルダのセットを作成できます。

The dialog box 'ホットフォルダの設定' (Hot Folder Settings) is shown with the following details:

- セット名** (Set Name): 名称未設定 (Name not set)
- 入力の設定** (Input Settings):
 - 入力フォルダ (Input Folder): D:\画像\回転ミラー\処理前 (D:\Image\RotateMirror\Before Processing) [選択]
 - ネガボジ反転 (Negative/Invert)
- 出力の設定** (Output Settings):
 - 出力フォルダ (Output Folder): D:\画像\回転ミラー\処理後 (D:\Image\RotateMirror\After Processing) [選択]
 - ファイル名に追加する文字 (Text to add to filename): Rotate_ [先頭に追加 (Add to start) selected, 末尾に追加 (Add to end)]
 - 二値圧縮形式 (Binary Compression Format): G4
 - 多値圧縮形式 (Multi-value Compression Format): LZW
- 処理選択** (Processing Selection):
 - 0度 (0 degrees)
 - 90度 (90 degrees)
 - 180度 (180 degrees)
 - 270度 (270 degrees)
 - 縦軸対称 (Vertical axis symmetry)
 - 横軸対称 (Horizontal axis symmetry)
 - 両軸対称 (Both axes symmetry)
- 処理済ファイル** (Processed Files):
 - 何もしない (Do nothing)
 - 削除する (Delete)
 - 入力フォルダから指定フォルダに移動する (Move from input folder to specified folder)
 - 移動先 (Move to): [] [選択]

Buttons: OK, キャンセル (Cancel)

3 - 1 - 2 - 1 . セット名

【セット名】

フォルダセットの名称を自由に設定できます。対象印刷機などの名前を設定しておくこともできます。

3 - 1 - 2 - 2 . 入力の設定

【入力フォルダ】

自動監視するホットフォルダ名を入力します。「選択」ボタンをクリックして、フォルダ選択ダイアログによって入力フォルダを選択することもできます。あらかじめ入力フォルダを用意していない場合は、フォルダ選択ダイアログの新規作成ボタンを押すことにより、新しくフォルダを作成すると同時に、入力フォルダとして指定することができます。

「入力フォルダ」にファイルが入れば自動的に回転/ミラー処理を開始します。

【ネガポジ反転】

画像のネガポジ変換する場合に指定します。

1Bit 画像では ON/OFF (黒白) が反転します。グレースケール、CMYK コンポジットでは階調反転となります。

3 - 1 - 2 - 3 . 出力の設定

【出力フォルダ】

出力フォルダは回転/ミラー処理済画像を保存するフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

【ファイル名に追加する文字列】

入力ファイル名にこの文字列が追加され出力ファイル名となります。

例えば入力ファイル名を「A 4パンフレット.tif」追加文字列を「Rotate90_」とすると

先頭に追加なら「Rotate90_A 4パンフレット.tif」

末尾に追加なら「A 4パンフレット Rotate90_.tif」

となります。対象印刷機名などを追加文字列とすればファイル名で処理内容の管理ができます。

但し末尾に追加の場合、色名規則外の画像名となり、BitThrough アプリケーションでは使えない場合がございます。十分注意して下さい。

【圧縮形式】

出力画像の圧縮形式は入力画像の種類により二値圧縮形式（1Bit TIFF）と多値圧縮形式（グレイスケール、CMYK コンポジット）があります。入力フォルダに入れられた画像に応じてどちらかの設定が有効になります。

二値圧縮形式



多値圧縮形式

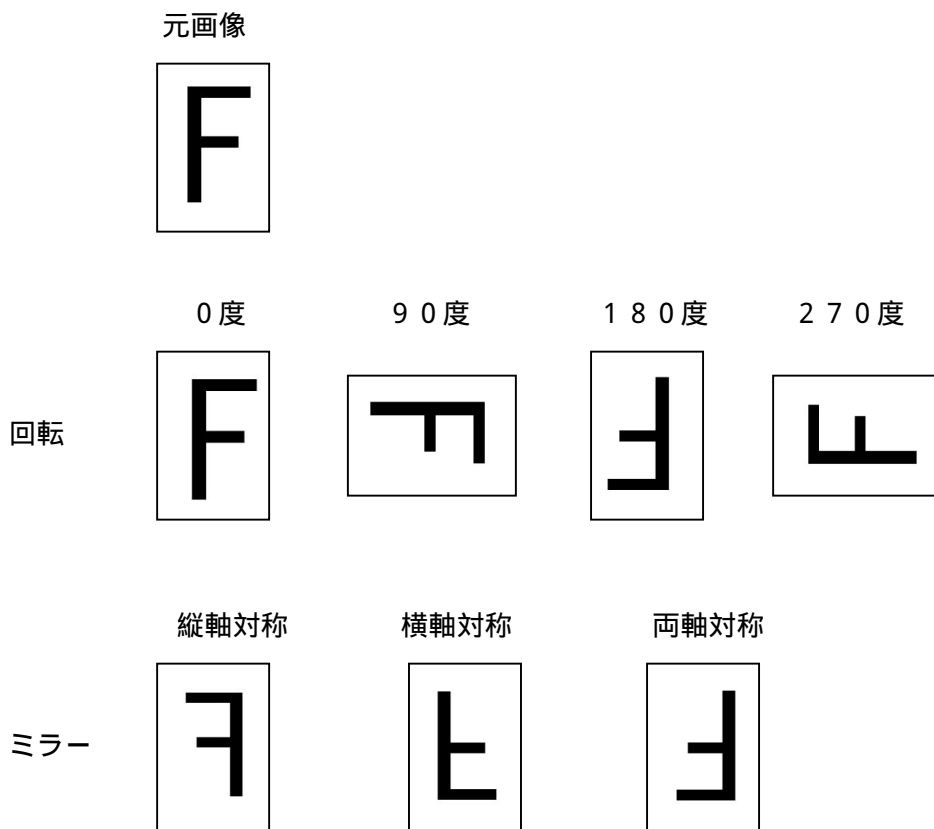


3 - 1 - 2 - 4 . 処理選択

画像に施す処理を選択します。

回転 (0 , 90 , 180 , 270 度) またはミラー処理 (縦軸、横軸、両軸) を指示します。

0 度回転とすれば、ネガポジ、圧縮形式変換アプリケーションとしても利用できます。



3 - 1 - 2 - 5 . 処理済ファイル

処理済入力ファイルの処理を設定します。

処理は

何もしない

ファイルは入力フォルダに保存されます。

削除する

ファイルは削除されます。

入力フォルダから指定フォルダに移動する

ファイルは以下の移動先で指定されたフォルダに移動されます。

が選べます。

【移動先】

処理済入力ファイルを移動するフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

4 . HTML によるログファイルの出力

Rotator の処理状況をクライアントマシンの WWW ブラウザ (InternetExplorer、 Netscape など) から見るすることができます。

設定方法

- 1、Rotator の「設定ダイアログ」でログの出力先を指定します。クライアントマシンからログを見るためには共有されたフォルダを指定します。OK ボタンを押した段階でログファイルが生成されます。
- 2、クライアントマシンの WWW ブラウザを起動し、生成されたログファイルをドラッグします (または、WWW ブラウザのメニューからファイルを指定します)。
- 3、今後 2 の処理をしなくてすむように、WWW ブラウザの「お気に入り」に登録します。(Netscape の場合はブックマークに登録)

5 . トラブルシューティング

起動時または「ホットフォルダの設定」メニューの選択時にエラーが発生する

設定ファイルが古い、壊れている可能性があります。Rotator フォルダにある「.def」という拡張子のついたファイルを削除してください。